

平成 27 年度 第 2 回福井市行政改革推進委員会 会議概要

1 開催日時 平成 27 年 7 月 22 日（水）9:00～11:00

2 開催場所 市役所第 1 委員会室

3 出席者

- (1) 委員 南保勝 委員（委員長）、稲葉明美 委員、今村善信 委員、岡山宇太郎 委員、
奥村清治 委員、黒川俊枝 委員、齋藤万世 委員、澁谷政子 委員、田村洋子 委員
※内山秀樹 委員（副委員長）は欠席
- (2) 事務局 総合政策室

4 会議次第

- ・ 開会（市民憲章唱和）
- ・ 協議 (1) 平成 27 年度外部点検対象事業の決定について
(2) 外部点検の実施体制、スケジュールについて
(3) 意見交換
(仮称)「新福井市行財政改革指針」(H29～33 年度) の策定について
(4) その他
- ・ 閉会

5 協議の概要

委員長	まず、協議事項 (1) 平成 27 年度外部点検対象事業の決定について、事務局から説明を。
総合政策室	【説明】
委員長	ただいまの説明に対し、何か意見、質問等はないか。 ないようなので、選定票に記入し事務局へ提出を。 (選定票回収、事務局集計)
委員長	事務局は集計結果の発表を。
総合政策室	(集計結果発表：詳細別紙参照)
総合政策室	「No.4 国際化推進事業」と「No.5 交通安全普及啓発事業」はまちづくり・国際課が、「No.11 乳幼児健康支援デイサービス事業」「No.12 保育カウンセラー配置事業」は子育て支援室が所管しているが、点検事業は 1 所属につき 1 事業とさせていただきたいので、所属が重複している事業については得点上位のものを 1 つ選

	<p>ばせていただき、合計 12 事業としたい。</p> <p>「No.1 景観推進事業」「No.2 中山間地域コミュニティ活性化事業」 「No.4 国際化推進事業」「No.7 地域内共同参画推進事業」 「No.9 自治会型デイホーム事業」「No.11 乳幼児健康支援デイサービス事業」 「No.13 健康教育相談事業」「No.14 地域産品販路拡大促進事業」 「No.15 福井フィルムコミッション事業」「No.18 いきいき学校生活支援事業」 「No.21 成人式開催事業」「No.23 図書館運営事業」</p>
委員長	<p>事務局から提示された 12 事業でよいか。</p>
委員	<p>「No.4 国際化推進事業」「No.5 交通安全普及啓発事業」について、所管所属が同じなので得点の高いほうの事業を 1 つ選ぶというのは、手続き的には納得するが、この 2 つの事業を同じ所属でやっていること自体に違和感がある。</p>
委員	<p>私も国際化の事業と交通安全の事業を同じ所属で担当しているということには疑問があるし、今、国体を控えているなか、交通指導員が年々減っていることについてどう考えているのか聞きたいので、「No. 5 交通安全普及啓発事業」は入れてもらいたい。</p>
委員	<p>同じ所属でも「No.4 国際化推進事業」と「No.5 交通安全普及啓発事業」は事業内容が違うので入れてもらいたい。交通指導員が高齢化していることも聞いているので、そのあたりも聞いてみたい。</p>
総合政策室	<p>「No.4 国際化推進事業」「No.5 交通安全普及啓発事業」は同一所属でも内容が違うが、「No.11 乳幼児健康支援デイサービス事業」「No.12 保育カウンセラー配置事業」は同一所属で内容も似ているが。</p>
委員	<p>選定票に 23 事業が候補としてあがっているのなら、同じ所属でも事業を 2 つとも対象としてもいいのではないか。我々は選定するうえで 1 所属 1 事業として選んでいるのではなく、人口減少社会に対応して福井市として何を点検すべきかという視点でしか選定していない。そういう意味では、まちづくり・国際課が所管している「No.4」と「No.5」も、子育て支援室が所管の「No.11」と「No.12」も考え方は同じではないか。</p>
総合政策室	<p>選定対象候補とする時点で事務局側で絞ってしまうよりも委員会で絞ってもらったほうがいいのではと考え、1 所属 2 事業が対象候補となったものもそのまま提示させていただいた。</p>
委員	<p>個人的な意見だが、事業内容が似ている「No.11」と「No.12」はどちらかに絞ってもいいが、内容が異なる「No.4」と「No.5」は対象としてもいいのではないか。</p>

委員	<p>私は子育て世代だが、「No.12 保育カウンセラー配置事業」について、カウンセラーが配置されているということを全然知らなかった。幼稚園に通っている子どもが2人もいて、決算額も大きいのに知らなかったというのがショックだった。目的、内容を知って、予算をつけるべきなのか効率化すべきなのか点検するため、選定を希望した事業であった。</p>
委員	<p>「No.11」も「No.12」も子育て支援室が行っている事業だが、一緒に話を聞くことはできないのか。</p>
委員	<p>事業内容が似ているからどちらか1つの事業の点検だけでいいというものではないのではないか。似ていても別々にやっている意味があって、関連のある事業だと思うので、一緒に点検して一緒にやれるところがないのか、連携したらもっと良くなるのではないかという視点でも見ることはできるのではないか。事業単位で区切らないほうがいいこともあるかもしれないので、この機会に両方を点検するという考え方もあるのではないか。個人的には点数順どおり「No.4」と「No.5」、「No.11」と「No.12」の両方を入れてもいいと思う。</p>
総合政策室	<p>「No.11」と「No.12」を対象とした場合、同じ所属の事業であるので関連はあるが事業内容自体は違うので、点検するのであれば点検時間は分けたほうが質疑はやりやすいと思う。</p>
委員長	<p>それでは、1所属1事業と考えずに、最初の順番どおり「No.5 交通安全普及啓発事業」と「No.12 保育カウンセラー配置事業」も対象として14事業を対象としたいと思うがどうか。1班7事業を2日で見るのはきついだらうか。</p>
総合政策室	<p>担当所属が同じ事業について、2事業をまとめて説明し質疑を受けるということは難しいと思うが、点検自体は区切って、時間を少し短くすることはできると思う。</p>
委員長	<p>それでは、得点順に14位まで選んで、同じ所属の事業については簡素化して報告をしてもらうことにする。点検事業数は1班につき7事業でいきたい。</p>
委員	<p>2つに分かれているのに疑問を感じる事業がある。「No.9 自治会型デイホーム事業」は内容がいまひとつだと感じている。所管所属は違うのだが、「No.13 健康教育相談事業」は生活習慣病の予防や健康の増進ということをやっているので、健康教育相談事業を自治会型デイホーム事業のなかに入れて健康相談に応じるというのはどうか。</p>
委員長	<p>「No.9」と「No.13」を一緒に点検したいということか。</p>

総合政策室	<p>同じ日に点検するようにし、点検順を並べることはできると思うが、外部点検は既に行った事業の事後点検をするものなので、今後事業をどのようにしていくべきかという話はできて、違う事業と一緒に点検するというのは難しいと思う。</p>
委員	<p>自治会型デイホーム事業は遊びの部分が多いので、それよりも保健センターの方を呼んで、健康相談事業のように健康のことなど悩みを相談するための時間が持てればいいと思うのだが。今、自治会型デイホーム事業でやっている中身は子ども向けと同じ中身になっている。また、同じ人が何箇所にも行っていたりもするので、その部分についても改めるには、保健センターの方を呼んで健康相談をしてもいいのではないかと思ったのだが。</p>
委員	<p>自治会型デイホーム事業のあり方へのご意見であるので、自治会型デイホーム事業の点検をするときに、そのようなご意見を伝えればいいのではないか。</p>
委員長	<p>所管が違って、どちらも市の事業であるので、自治会型デイホーム事業の点検のときにご意見を言っていたらと思う。</p>
総合政策室	<p>確認だが、「No.11」と「No.12」については対象が同じ乳幼児ということで、同じ枠のなかで点検して多少時間の折り合いがつけられるが、「No.4」と「No.5」については、所属は同じだが事業内容が全然違うので、通常どおり1時間枠で点検するほうがいいのであれば点検事業総数は13事業のほうがいいのではないか。</p>
委員	<p>「No.11」と「No.12」と同じように、「No.4」と「No.5」も合わせて1時間半で点検すればいいのではないか。</p>
委員長	<p>1所属2事業あるところについては、まとめて時間を短縮して点検するということがいいのではないか。実際は点検時間が延びるかもしれないが、委員みなさんがよければ、対象事業としてこのように決定したい。</p>
	<p>【決定】 「No.1 景観推進事業」「No.2 中山間地域コミュニティ活性化事業」 「No.4 国際化推進事業」「No.5 交通安全普及啓発事業」 「No.7 地域内共同参画推進事業」「No.9 自治会型デイホーム事業」 「No.11 乳幼児健康支援デイサービス事業」「No.12 保育カウンセラー配置事業」 「No.13 健康教育相談事業」「No.14 地域産品販路拡大促進事業」 「No.15 福井フィルムコミッション事業」「No.18 いきいき学校生活支援事業」 「No.21 成人式開催事業」「No.23 図書館運営事業」</p>
委員長	<p>それでは次に、協議事項(2)外部点検の実施体制及びスケジュールについて事務局から説明を。</p>

総合政策室	【説明】
委員長	スケジュールは説明のとおりだが、点検を希望する事業は特にあるか。
委員	「No.2 中山間地域コミュニティ活性化事業」、「No.4 国際化推進事業」、「No.5 交通安全普及啓発事業」そして「No.9 自治会型デイホーム事業」を希望する。
委員長	班の構成員を変えてもかまわないので、事務局で調整をしてもらいたい。
委員	2班の点検日程について、10月8日、9日と連続で点検をするのはきついのではないか。
総合政策室	委員みなさまのご都合をみて、8日、9日のどちらかを予備日の15日と入れ替えることはできると思う。また、みなさんの点検希望事業を見てからだが、点検1日目と2日目で一部班員の構成が変わるかもしれないので、ご相談をさせていただきたい。
委員	「No.11 乳幼児健康支援デイサービス事業」や「No.23 図書館運営事業」について興味があるのだが、自分が関係している事業については点検できないのか。
総合政策室	利害関係がある場合や、運営に関わっている場合には客観的立場からご意見をいただくことが難しい場合もあると思うので、別の事業の点検をお願いしたい。
委員長	要望になるが、各事業の説明をする方の話し方や中身について、伝わってくる方と伝わってこない方がいる。事業内容の説明も資料に書いてあることだけでは意味がないので、ポリシーや理念が伝わってくるくらいの迫力をみせてもらいたい。 あとは各委員の方と事務局とで調整していただき、決定してもらいたい。
委員長	それでは、次に(3)（仮称）「新福井市行財政改革指針（H29～33年度）の策定について、事務局から説明を。
総合政策室	【説明】
委員長	ちょうど昨日、別の市の行政改革委員会に出席していたのだが、もう第2ステージに入ったのかなという印象であった。事務事業のやり方を見直し中身を革新していくという内容で、単に人員を削減するというような話は全然ない。お金をかけるところはかけるが、その一方でいらぬ事業はどんどん切っていくという選択と集中という感じであった。前向きな行財政、構造改革が他市でも進んでいるなど感じた。本日は県都でもある福井市の行財政改革についてご意見をいただ

委員	<p>ければと思う。</p> <p>先ほど 27 年度外部点検対象候補事業概要を読んでいたのだが、危機管理室の「No.3 防災備蓄整備事業」とか、河川課の「No.17 水防対策事業」とか、よく似た事業を別々の部署でやっている。また、まちづくり・国際課の所管のなかに「No.5 交通安全普及啓発事業」が入っているという、理解しにくいところがある。交通安全普及啓発事業は、市民に対する交通安全の普及啓発は条例で市民生活部が所管するとなっていて、交通安全課がなくなった後、まちづくり・国際課が担当になったという話を聞いているが、条例改正も含めてやらないと改革にならないのではないかと思う。</p>
委員	<p>何年間か行政改革に携わらせてもらい感じているのは、改革というよりは改善をしているなということである。それも木を見て森を見ずという感じになっていて、ひとつひとつの部署が効率的になるためにはどうしましょうとか、効果が上がるためにはどうしましょうとか、最近、外部点検を含めてそういうところしかやっていなかったのではないかと感じている。先ほどの説明でも横串を通すという話があったが、組織全体として効率的、効果的な行財政とはどうあるべきかというところをもっと話したほうが本当の行財政改革につながるのではないか。</p> <p>もうひとつ、先ほど選択と集中という話もあったが、もう少し事業に優先順位をつけるべきなのではないかと思う。企業だと、いろんな事業をやっている、どれも大事だけれども本気のテーマとしてはここというところがある。例えば営業でいくつもチームがあってもこのチームに力を入れないとというのがたぶんある。そうすると、地方創生、人口減少と言われているなか、こういう部分に力を入れていくということが、例えば総合政策室で決まったのなら、今回の5ヵ年の行財政計画の目玉としてその部分を重点的にするとしてもいいのではないか。1つの所属で1事業とか、いろんな部局を横断して見ましょうという話になってしまうと、総花的になってしまうので、今、福井市として置かれている状況では、このテーマが重要で、その担当はこの部局、そのテーマはこの部局といった優先順位や選択が必要ではないかと感じている。</p>
委員長	<p>民間企業では当たり前のことでもあるし、時間軸でいうと、短期と中長期ということによってやっていくという見方も必要なのかなと。短期的にこれは改善してしまうというやり方を導入してはどうかというご意見であった。</p> <p>行政というのは選択と集中、差別化とは言わないのかもしれないが、差別化までしないと、その自治体の色というのは出てこない。事務事業のなかで差別化をしてもいいと思うのだが。</p>
委員	<p>差別化と言わないならフォーカスするとか。</p>
委員	<p>市だからこそやらなければいけない基本的な事業はあると思うが、やはり同じものを常に見ていくだけではメリハリがつかない。ある程度、ここはこういう改</p>

<p>委員長</p>	<p>善をしてしばらくこの体制のまま続けようとか目処をつけてはどうか。毎年改善していくというところも必要であるとは思いますが、やってみないと、メリットもデメリットもでてこないと思うので、ここでいいかなと思う部分は置いておき、それに加えてプラスアルファをするという、基本的な部分と特化した部分を評価していくという考え方もあっていいのではないかな。</p> <p>ここまで達成したから今年はこの事業はここまででいいとして、そのかわりこれはここまででは駄目でもっとやらなければいけないという、もっと柔軟性をもったやり方をしてはどうかというご意見だと思う。</p> <p>第七次総合計画もそうなのだが、行政は網羅的に全部をするというところがある。行政も見える化だけでなく、見せる化までして、やっているぞというアピールをもっとやっていかなければいけないと思う。昭和40年代、50年代の行政のスタンスを見て、中身を知らずに行政は何も仕事をしていないと言う人は未だにいる。行政も職員が少なくなっているなか、さらに国や県から事務事業が下りてきて、そして独自事業もしているという大変さがあまり伝わっていないところがある。すべての意見を受け入れることはできないので、30%が味方につけばいいと考えてはどうか。3:3:3の法則があって、30%は味方をしてくれる人、30%はどちらでもいい人、30%は反対の人。どちらでもいい人を味方につければ60%の人が味方になるので、3割を味方につけるようなやり方を考えられるといいのでは思う。</p>
<p>委員</p>	<p>今回の外部点検は人口減少社会への対応のため、効率的効果的な行政を提供できればということで事業選定をした。そのなかで子育て支援や、まちづくり、福井国体といったところに力を集中していかなければいけないのではないかなという意見がでていた。昨年から外部点検をするなかで思ったことは、限られた財源のなか、もう役割を果たした事業については、どこかに移譲するというようにしてはどうかということ。集中すべきところに集中できるように、外に離せるようなものや長い間やっているような事業は、切り離していってもらえたらと思う。財源は限られているので、子育て支援や人口減少のために財源を集中していってもらえたらと思う。</p>
<p>委員長</p>	<p>時流にのった行政運営というのをやっていかなければいけない。事業をやめるということがなかなかできないのが行政の弱さであるが、ある程度役割が済んだ事業、時代の流れからこぼれていった事業については力を入れずに、これから必要となるところに資源を集中してはというご意見であった。</p>
<p>委員</p>	<p>私も選択と集中、差別化というところが大事だと思う。限られた予算でやっていくわけなので、時代のニーズに合ったところに注力してもらえるとありがたいと思う。</p> <p>市の会議なので仕方がないのだが、市の情報しか出てこない。福井市はたまたま県都で県の施設もけっこう市内にある。そのなかでいろいろなところで重複し</p>

総合政策室	<p>ている部分があるのではないかと思う。よく言われるのは県と市の駐車場が駅前のあんなに近くになぜ2つもあるのかという話で、他にも重複しているものがあるのではないかと思うのだが、この会議だけではつかめない。</p> <p>今日の外部点検の候補事業にあがっていた「地域産品販路拡大促進事業」は、私の中では、福井産のいろいろなものをアピールしていくのは県だと思っていて、市がやっているという認識がなかった。県でも、市でもやって、リソースを分けて小さいことをいっぱいやっているという印象なので、そのあたりの整理がもっと上手くできたらいいのにとと思う。</p> <p>産業系は特に県と絡むところがあり、県と連携するところもあれば、独自性を出すところもある。</p> <p>他の市町との連携を推進して、例えば福井市がある機能を持っていたら他の市は持たなくてもいいのではないかということも考えている。連携は非常に大切なので、無駄なところは分かりやすく見せながら、効率的にやっていきたいと常々思っている。</p>
委員	<p>今年は保育園がたくさんできたのだが、去年は、森田、木田、明新などでは保育園が足りなかった。市の周辺部なので、ちょっと市のラインを超えて坂井市の保育園に預けられたら、そんなに遠くなく行けるのに駄目だと言われる。福井市では待機児童がいて保育園が足りないといっているのに、市のラインを超えた向こう側では余裕があるというようなことも聞いたので。今年は保育園がたくさんできたので、充足はしたのだが、もともとあるものを使っていけたら、もっと楽なのにと思った。</p>
委員	<p>長い間、この行政改革推進委員会に携わっているが、市民の目から見てどう変わったのかなというのが分からなくて、市民のほうも、行政は怒鳴り込んでいけば何かしてくれるという感覚を未だに持っているのではないかと思う。</p> <p>この前ひとつ気になったことがあって、市民課へ印鑑証明をもらいに行ったときに、記入用のボールペンがひとつもなかった。ボールペンはどうしたのか聞いたら、朝にボールペンをセットしておく、全部なくなってしまうとのことだった。それなら、ボールペンに紐をつけてはどうかと言うと、紐がついているのは福井市だけだと言われるということであり、そういう福井市民がいると思うと残念だった。行政ばかりに変えろ変えろというばかりでなく、市民も変わらなければと思う。教育とか環境の浄化、モラルは、老人会の集会や、我々婦人会の集会、社会教育のなかで伝えていくものかなと思うのだが、なかなか団体行動をとらなくなっている、そういうこともできないのかなと感じる。自分もそうなのだが、そういうところを真剣に考えている人が少なくなっているのかなと残念でならない。</p> <p>また、行政がこれだけ改革していこうとしていることを分かってもらうため、今年はこういうところを頑張っていきますということを市長が話す場があるといい。このあいだ議会に傍聴に行ったのだが、議会だけでなく、市長が表明でき</p>

	<p>る場があってもいいのではと思う。それぞれの委員会で一生懸命考えているのに市民は知っているのかなと疑問に思う。我々委員のPRだけでは届かないし、我々だけが考えて分かっているだけのようで、本当にもったいないと感じている。</p> <p>県は市と連携するというよりも、国から来た事業も市にまかせてしまうというところが多いようである。実践部隊は市であるので、県にも言わなければいけない。</p>
総合政策室	<p>県と連携もとらなければいけないが、市としての考え方も伝えている。もっと市がPRすることは大事だと思っており、分かりやすく伝えていきたい。</p>
委員	<p>行政を見るときに、県、市、町、その他各種団体があるが、画一的に市民が見てしまっているところがあると思う。県と市、町、各種団体では、スタッフの考え方も違うし、アクションも全然違う。そこがアピールされていない。</p>
委員	<p>我々一般市民からこうやってほしいということがあっても、市は無理に踏み込まず中立的な態度でいたいのかなとか、そんなふうを感じる時がある。</p>
委員	<p>担当者によっても違う。熱い行政マンをたくさんつくってもらいたい。</p>
委員	<p>参考資料の他都市の行政改革の表を見て、大きな市でも変わらずにこんなことをやっているのだと感じた。地方分権、地方分権と言っているなかで、未だに人材育成なんて言っている。人材育成というよりも、人材が学び続けて上司となって部下を育てていくという考えがなぜないのか、取組項目のなかに出てくるのはおかしいのではないのかという想いがある。他の市でも通用するようなことならやる必要がない気がして、福井市の場合も、もしこれと同じだったら残念である。</p> <p>差別化するため何が福井市としての魅力かと考えると、例えば、市の職員が市民の立場で市民交流を積極的にしてくれることがある。特に我々の市民活動には職員の方もけっこう来て、会議などにも説明に来てくれたりしている。あと一番魅力的だと思うのは市政出前講座である。市として魅力的なものをたくさん持っているのに表に出てこないか、または出てきているのだが、知らない。いいことをやっているのに、市民が知らないで、見える化、見せる化が必要というご意見が先ほどから出ている。資料は事務的な表なのかもしれないが、福井市は何か他とは違うと見せられるような指針のつくり方はできないか。上から下に降りていく表で、何十年も同じようなやり方でやっている。</p> <p>総合計画の目標である「かえりたくなるまち ふくい」というのは、これからの私たちの本当の大きな目標だと思う。家庭内の問題でも、市の問題でもあり、高齢化社会を迎える社会全体の問題でもある。おかえりなさいが言えるまちというのは大切なんだという視点をテーマにしてはどうか。本当は福井に留まってほしいのだが、今はおかえりなさいを言う時期だと思うので、そういう戦略的なことをしてもいいのではないか。</p>

	<p>戦後 70 年、「フェニックスのまち ふくい」とこれだけ言っているのに若い人たちは知らない。その部分も含めて、福井市が今、取り組もうとしている部分をキャッチコピーなりで伝えてはどうか。</p> <p>福井市にはいいものがあるけれども育っていない部分があり、職員と市民が同じ立場で考えていかなければいけないのだが、いい方向にあると思う。市民活動をやっていると、職員も土日、夜でも一緒になって説明に来てくれて、考えてくれる。時には早く自立しろと厳しいことを言われることもあるが、もちろん市民活動として自立していかなければいけないし、そういうふうには言われたいと自立もしていないので、一緒に協働してだんだん良くなってきていると感じている。そのあたりがもっと前面に出てくれば、職員をサポートしてくれる市民も増えてくるのではないかなと思う。</p>
委員	<p>5年というスパンが長いのかも。フレキシブルに毎年変えていくぐらいの考え方をしてもいいのかなと思う。</p>
委員	<p>今までやってきたことをこれでいいのかと見直すのが一番の行政改革だと思う。今、民間会社で中期計画を5年で作っているところはほとんどないと思う。ほとんどが3年。そうだとすると、他の自治体は5年や4年でやっているが、福井市は3年計画にしますというのは、ひとつの新しい改革だと思う。</p> <p>また、次期指針は29年度からの取組となるが、29年度を迎えたときに今の総合政策室の職員が何人残っているのだろうかと思う。普通、企業であれば考えた人とやる人が一緒に、少なくともその時まで、この人が責任を持ちますという人というのがいると思う。その人ががんばっている間に次の人が育っていく。こちらのほうが人材育成だと思う。そうすると、計画をたてたのは自分ではないから、そこまでできないというのがなくなるとすると、それだけで十分改革になると思う。この間だけはこの人にずっとやってもらいますとすることはそんなに難しいことではないが、今は3年ぐらいで異動してしまうということを考えると、十分改革にはなると思う。</p>
総合政策室	<p>重要なところにずっといる職員もおり、スペシャリストみたいになっている職員もいる。基本は異動で変わっていくのだが、重要な施策を企画した後、具体的な事業を持って違う所属に異動し、引き続き事業を担当するという場合もある。はっきりと表に出ていないだけで、そういう人事配置を考えているところはある。</p> <p>もうひとつ、総合計画が5年で長いということであったが、以前は10年くらいだった。他の自治体でも10年が基本である。5年は長いと感じるかもしれないが、基本的な指針なので5年間、そして、実施は毎年やっていく。5年計画でつくって途中で見直す方法もあるかもしれないし、情勢が大きく変われば臨機応変に変えるという方法もあるのかもしれない。</p>
委員	<p>先ほど、ボールペンがなくなるという寂しい話が出てしまったのだが、私の地</p>

	<p>区でも公園にトイレをつけたら、ボールペンと一緒にトイレットペーパーがすぐになくなってしまっていた。公園課が3つ4つ予備を置いておいても、使い途中のものまですぐになくなってしまいうので、自分の家からトイレットペーパーを持って行って、注意の貼紙をした。2ヶ月ほどかかったが、教えていけば変わった。また、20年ほど前は、福井は交通マナーが悪いとよく言われたが、今は変わってきた。トイレットペーパーを持って行ってしまったような人が今、まちづくりをするような時代になってきているので、福井の人は教えて伝えればやってくれると思う。夏休み期間に、子どもを90人ほど朝から預かってお年寄りやNPOに見てもらっているが、みんな非常に熱心に車で送り迎えまでしてくれる。福井の人はいい人であるが控えめである。だから出る機会をつくってあげて、教えてあげれば十分やっていけると思う。福井はいい人が集まっているので、市役所もがんばってほしいと思う。</p>
委員	<p>この間、高志中学校で講演をしたときに、福井はこんなに素晴らしいんだということ伝えた。最後に子ども達から「福井ってこんなに素晴らしかったんだ。それなら福井から外にでないのに」という感想が帰ってきた。どれだけ福井人というのは、自分の福井を伝えていないのかということだと思う。口伝えでもなんでもいいので、いいところをちゃんと伝えていけば、子ども達も分かってくれて、それをちゃんと継承してくれる。福井は自己否定なところばかりが目立つので、そういうところは変えていかなければいけないんだろうなという感じがする。</p>
委員長	<p>時間となったので意見交換は以上としたい。貴重なご意見をたくさんいただいたので、このご意見を次期行財政改革指針のなかに役立ててもらえればと思う。</p>
委員長	<p>それでは、次に協議事項(4)その他について、事務局、委員から何かあるか。</p>
総合政策室	<p>特にない。</p>
委員長	<p>それでは以上で協議を終了する。</p>

平成27年度外部点検対象事業 選定結果 【14事業】

別紙

決定	得点	No.	中事業名	所管所属
○	27	1	景観推進事業	都市整備室
○	27	2	中山間地域コミュニティ活性化事業	行政管理室
	9	3	防災備蓄整備事業	危機管理室
[○	21	4	国際化推進事業	まちづくり・国際課
[○	18	5	交通安全普及啓発事業	まちづくり・国際課
	12	6	消費者行政活性化事業	消費者センター
○	13	7	地域内共同参画推進事業	男女参画・市民協働推進室
	11	8	環境美化地区推進員設置事業	清掃清美課
○	37	9	自治会型デイホーム事業	地域包括ケア推進課
	9	10	母子家庭等日常生活支援事業	子ども福祉課
[○	19	11	乳幼児健康支援サービス事業	子育て支援室
[○	14	12	保育カウンセラー配置事業	子育て支援室
○	18	13	健康教育相談事業	保健センター
○	22	14	地域産品販路拡大促進事業	商工振興課
○	18	15	福井フィルムコミッション事業	おもてなし観光推進室
	4	16	美しい森林景観再生事業	林業水産課
	7	17	水防対策事業	河川課
○	14	18	いきいき学校生活支援事業	学校教育課
	2	19	外国人・帰国児童生徒日本語指導事業	学校教育課
	6	20	食育推進事業	保健給食課
○	19	21	成人式開催事業	生涯学習室
	7	22	生涯スポーツ推進事業	スポーツ課
○	16	23	図書館運営事業 (市立、みどり、清水、桜木、美山図書館)	図書館(みどり図書館、桜木図書館)